

〈幼稚園健康〉

進んで体を動かすことを楽しむ幼児の育成

—多様な動きのある運動遊びと環境構成の工夫—

うるま市立具志川幼稚園 教諭 久高圭乃

I テーマ設定の理由

社会環境や生活様式の変化から、現代の幼児は体を動かして遊ぶ機会が減少している。幼児にとって、体を動かして遊ぶ機会が減少するということは、体力・運動能力の低下だけでなく運動・スポーツに親しむ資質や能力の育成の阻害、意欲や気力の減弱、対人関係などコミュニケーションを構築できないなど、子どもの心身の発達にも影響を及ぼすと考えられる。

平成30年度幼稚園教育要領が改訂され、その中心となるものが幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」である。その一つの「健康な心と体」においては「幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる」とある。幼児期に生まれた自ら健康で安全な生活をつくり出す姿は、小学校においても時間や空間に見通しをもって進んで生活しようとする姿や伸び伸びと行動する姿、あきらめずに粘り強く取り組む姿につながっていくと示されている。幼児が自分の興味のあることに取り組んだり、伸び伸びと体を動かして活動したりすることで楽しさや充実感を味わうことが、小学校へのつなぎとしても大切であると考えられる。

本学級の「家庭生活」に関する調査で「お子さんは体を動かして遊ぶことが好きですか」という質問に「好き」と答えた家庭が100%だが、平日の主な遊びでは公園やボール遊び等の「戸外遊び」と答えた家庭が19%、既製の玩具や端末を使った遊び等の「室内遊び」と答えた家庭が81%であった。静的活動が多い背景には、「共働きのため子どもとかわる時間が少ない」「近所に思い切り体を動かして遊べる場所がない」などの理由が考えられる。このような現状から、幼児が体を動かす遊びを中心とした身体活動を幼稚園生活の中で保障する必要性を感じる。本学級の幼児は、体を動かすことが好きで鬼ごっこやリズム遊び等を楽しむ幼児がいる。一方で、朝からだるさを訴えたり、体力が続かずすぐ疲れたと言ってくる幼児、室内遊びを好み戸外で体を動かして遊ぶことに対して消極的になったりする幼児もいる。

私自身のこれまでの保育を振り返ってみると、運動遊びへの興味・関心が高い子に焦点をあてた活動が中心になりがちで、体を動かす遊びが消極的な子には満足感や、達成感を十分味わわせることが足りないという課題があった。そこで、本研究では、園生活において多様な動きを経験できる遊びを取り入れ、幼児の興味・関心に沿った活動の充実や環境構成の工夫、個に応じた声かけや援助を行うことで、進んで体を動かすことを楽しむ幼児の育成につながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

多様な動きのある運動遊びや環境構成と援助の工夫をすることで、進んで体を動かすことを楽しむ幼児の育成を目指す。

III 研究仮説

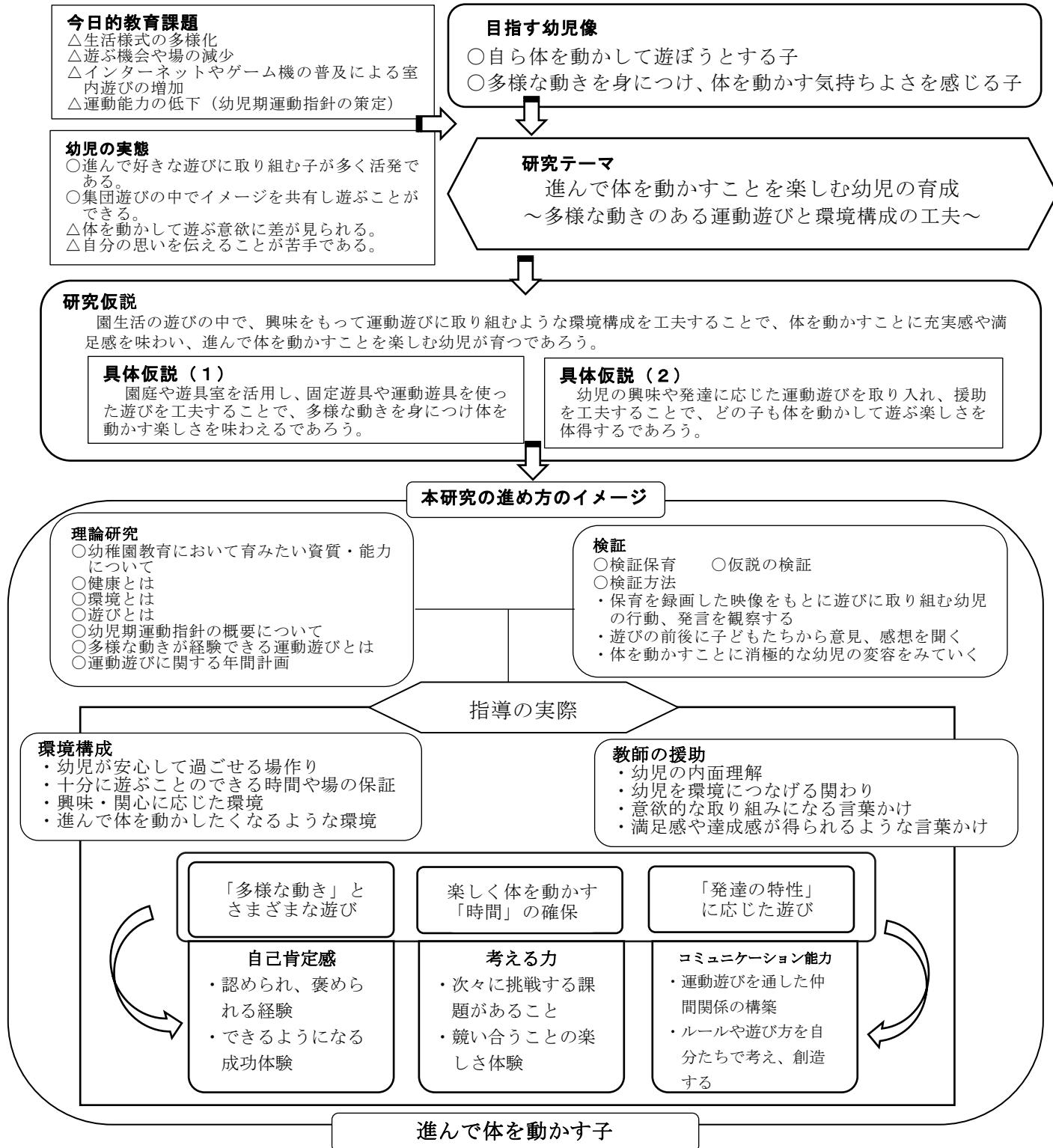
1 基本仮説

園生活の遊びの中で、興味をもって運動遊びに取り組むような環境構成を工夫することで、体を動かすことに充実感や満足感を味わい、進んで体を動かすことを楽しむ幼児が育つであろう。

2 具体仮説

- (1) 園庭や遊戯室を活用し、固定遊具や運動遊具を使った遊びを工夫することで、多様な動きを身につけ体を動かす楽しさを味わえるであろう。
- (2) 幼児の興味や発達に応じた運動遊びを取り入れ、援助を工夫することで、どの子どもも体を動かして遊ぶ楽しさを体得するであろう。

IV 全体構想図



V 理論研究

1 幼稚園において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは

(1) 幼稚園教育において育みたい資質・能力とは

幼稚園においては生きる力の基礎を育むため、幼稚園教育要領第1総則の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、図1に掲げる資質・能力を育てることが大切である。

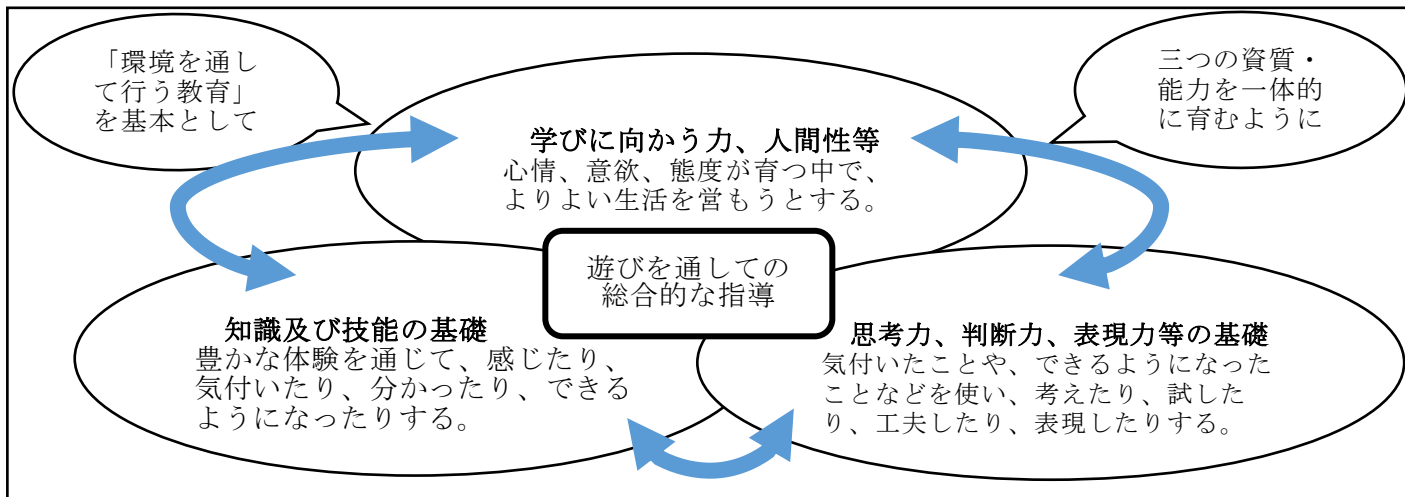


図1 幼稚園において育みたい資質・能力

(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは

幼稚園教育要領の第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

「健康な心と体」

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

幼児期に育まれた自ら健康で安全な生活をつくり出す姿は、小学校においても、時間や空間に見通しをもって進んで生活しようとする姿や、様々な場面で主体的に伸び伸びと行動する姿、あきらめずに粘り強く取り組む姿につながると考える。

2 幼稚園教育における健康

(1) 健康について

心身の健康に関する領域「健康」においては〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う〕ことを目的とし、ねらいには次の3つが掲げられている。

- ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。

生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で、心と体を十分に働かせて生活することによって培われていくものである。

健康な幼児を育てることは、単に身体を健康な状態に保つことを目指すことではなく、他者との信頼関係の下で情緒が安定し、その幼児なりに伸び伸びと自分のやりたいことに向かって取り組めるようにすることが大切である。

また、充実感や満足感を味わうようにすること、進んで体を動かそうとする意欲などを育てること、自分の体を大切にしたり、身の回りを清潔で安全なものにするなどの生活に必要な習慣や態度を身に付けていくことが大切である。

(2) 領域「健康」と教師の役割

① 教師自身が楽しむ

体を動かす遊びにおいては、遊びを生み出すきっかけはそれを伝承する「人」となる。実際に楽しそうに体を動かして遊んでいる仲間や教師の動きがモデルとなり、子どもの意欲を引き出す。教師の魅力的な動きは、子どもを動機づけるのに極めて重要である。また、子どもの「面白い」「楽しい」という気持ちに共鳴できるように心を柔軟にすることも大切である。

② 教師の援助

教師の役割として最も大切なのは、子どもがどのような遊びに興味・関心を持っているのか、そして、そこにどのような面白さを感じているのかを見極めることである。穂丸武臣(2003)は、「運動遊びの楽しさには階層性(図2)があり、これらの各段階で人とのかわりが付加されると楽しさが倍増される」と述べている。幼児の興味・関心を捉え、幼児同士が関わり合いながら遊びが展開できるように各階層に沿った教師の援助が必要だと考える。そこで、図2の「運動遊びの楽しさの階層構造」を参考に、幼児期の遊びに取り入れ、教師の援助として表1にまとめた。

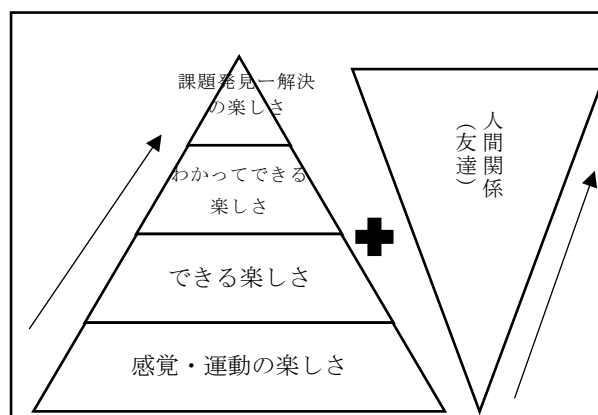


図2 「運動遊びの楽しさの階層構造」

表1 運動遊びの楽しさの階層に合わせた教師の援助

運動遊びの楽しさの階層	教師の援助
感覚・運動の楽しさ	・教師も一緒に遊び、ともに楽しむ場を作る
できる楽しさ	・助け合う、励まし合う場を作る ・受け入れられ、認められる場を作る
わかってできる楽しさ	・成長を紹介する場を作る ・楽しく挑戦する場を作る
課題発見—解決の楽しさ	・話し合い、考える場を作る ・課題解決し、楽しく挑戦する場を作る

3 幼稚園教育における環境

(1) 環境について

環境とは幼稚園教育要領第1節「幼稚園教育の基本」において、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」とある。

柴崎正行、若月芳浩(2009)は、環境は教師や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、更には自然や社会の事象などがある。園はこうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、子ども自ら環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるよう配慮すること。と述べている。そのためには、充実感や満足感が味わうことができるように、工夫と配慮を凝らした環境を整えていく必要があると考える。

(2) 環境構成について

幼稚園教育は「環境を通して行う教育」が基本である。幼稚園教育要領解説によると、「環境

を構成するという事は、物的、人的、自然的、社会的など、様々な環境条件を相互に関連させながら、幼児が主体的に活動を行い、発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況をつくり出すことなのである」とある。幼児の周囲にあるものすべてが環境になり、幼児は好奇心や探求心をもって主体的に関わり、自分の生活や遊びに取り入れていくことを通して発達していく。このため、教師は幼児の豊かな体験を目指して、意図的、計画的に環境を構成することが大切と考えられる。

(3) 領域「健康」と環境構成

領域「健康」は、健康な心と体を養うことを目指した領域であるということから、環境からの影響を考慮しないわけにはいかないと考える。仙田満（1992）は「子どもの遊びには、自然スペース、オープンスペース、道スペース、アナーキースペース、アジトスペース、遊具スペースの6つの原空間が必要だ」と述べている。その理論を踏まえて、園における幼児期の子どもの遊びに必要な空間は、自然豊かな空間、ルールのある運動遊びやボール遊びなどを可能にするオープンな空間、イメージをもった遊びを展開するときに必要な「遊びの拠点」となるような空間、個々の幼児なりの挑戦を可能とする固定遊具の空間が必要で、子どもの興味・関心に即したものになるように、環境構成を考える必要があると考える。

4 幼児期の遊びとは

(1) 遊びとは

保育用語辞典によると、遊びとは「子どもにとって生活そのものであり、子どもは日々の遊びの中でさまざまな経験をする。子どもの育ちにおいて遊びが重要であるとくり返されていること背景には、それによって経験されることが幼児の成長発達に欠かせないものであるという理解があるためである。自分の興味に基づき自発的に展開する活動としての遊びにおいて、物的にも人的にも多様なかかわりをもつことは心身の調和のとれた発達の基礎となり、また総合的な発達が期待できる」とし、幼児期における遊びの位置づけを行っている。

また、幼稚園教育要領解説第1章1節3－（2）では、遊びの本質について「遊びは遊ぶこと自体が目的であり、人の役に立つ何らかの成果を生み出すことが目的でない。」とあり、「幼稚園における教育は、遊びを通しての指導を中心に行うことが重要である」と示されている。このことから、子どもが興味を持って自発的に遊ぶことそのものが、子どもにとっての内面の充実や自己充実に深くかかわる、かけがえのないものであると考える。

(2) 遊びを通した総合的な指導について

子どもの行う活動や遊び一つをとっても、そこには保育内容の領域でいえば、様々なものが関係し絡み合っていると見える。幼稚園教育要領解説第1章1節3－（2）②総合的な指導において「幼児期には諸能力が個別に発達していくのではなく、相互に関連し合い、総合的に発達していくのである」とあり、「遊びを通して総合的に発達を遂げていくのは、幼児の様々な能力が一つの活動の中で関連して同時に発揮されており、また様々な側面の発達が促されていくための諸体験が一つの活動の中で同時に得られているからである」と示されている。遊びが総合的であるとは、幼稚園教育要領の5領域が遊びの様々な面を構成しているからである。このことから、幼児が遊びを展開する中で、総合的な発達を促すためには様々な領域の側面から捉え、幼児の主体性を大切にしながら、適切にかつ総合的に指導をしていかなければならないと考える。

(3) 遊びにおける教師の役割

幼児期は、身近な大人との間に信頼関係を結び、幼児自らの主体性を培っていく時期である。また、幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期でもあることから、毎日過ごす幼稚園での身近な大人である教師の存在は、心身の発達に大きな影響力をもつ。幼児は幼稚園において、教師との信頼関係をよりどころとしながら、他児との友達関係を形成し、「遊び」を中心とした活動に取り組むようになるのである。教師の役割として、岸井勇雄・無藤隆・柴

崎正行（2009）は、「主として、子どもと一緒に遊んだり、子どもが困難を抱える場面での援助を行ったりするなど、子どもに対する直接的なかかわりと、子どもの興味・関心を喚起するような物や場所をつくったり、子ども同士のやりとりに保育者がかかわらず見守ったりするなど間接的なかかわりがある」としている。また、幼稚園教育要領解説第1章指導計画の作成上の留意事項（7）教師の役割においても、「幼児の主体的な活動を促すためには、教師が多様なかかわりをもつことが重要であることを踏まえ、教師は理解者、共同作業員など様々な役割を果たし、幼児の発達に必要な豊かな経験が得られるよう、活動の場面に応じて適切な指導を行うようにすること」として、教師の役割に関して次の4つの視点が示されている。

- ① 活動の理解者としての役割
- ② 幼児の共同作業員、幼児と共鳴する者としての役割
- ③ 憧れを形成するモデルとしての役割
- ④ 遊びの援助者としての役割

このように教師には、幼児一人一人の特性を理解し、興味・関心を捉え、活動の幅を広げたり、遊びが豊かになるような保育実践をしていく必要があると考える。

5 幼児期運動指針の概要について

(1) 幼児期運動指針の背景と意義について

幼児期運動指針（平成24年3月策定）が作られた背景には、子どもの体力低下問題がある。幼児期からの運動習慣をとおして、体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性を育むことを目指し、幼児期運動指針が策定された。

(2) 幼児期運動指針について

- ① 幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切。
- ② 幼児期運動指針のポイント
 - ア 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること
 - イ 楽しく体を動かす時間を確保すること
 - ウ 発達の特性に応じた遊びを提供すること

(3) 幼児期の運動の意義

幼児は心身全体を働かせて様々な活動を行うので、心身の様々な側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていく。このため、幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、豊かな人生を送るための基盤づくりとなることから、次のような様々な効果が期待できる。

① 体力・運動能力の基礎を培う

幼児期は、神経機能の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上する時期である。この能力は、新しい動きを身に付けるときに重要な働きをする能力であるとともに、周りの状況の的確な判断や予測に基づいて行動する能力を含んでおり、けがや事故を防止することにもつながる。幼児期に運動を調整する能力を高めておくことは、児童期以降の運動機能の基礎を形成するという重要な意味を持っている。

② 丈夫で健康な体になる

幼児期に適切な運動をすると、丈夫でバランスのとれた体を育みやすくなる。特に運動習慣を身に付けると、身体の諸機能における発達が促されることにより、生涯にわたる健康的で活動的な生活習慣の形成にも役立つ可能性が高く、肥満や痩身を防ぐ効果もあり、幼児期だけでなく成人後も生活習慣病になる危険性は低くなると考えられる。また、体調不良を防ぎ、身体的にも精神的にも疲労感を残さない効果があると考えられる。

③ 意欲的に取り組む心が育まれる

幼児にとって体を動かす遊びなど、思い切り伸び伸びと動くことは、健やかな心の育ちも促す効果がある。また、遊びから得られる成功体験によって育まれる意欲や有能感は、体を活発に動かす機会を増大させるとともに、何事にも意欲的に取り組む態度を養う。

④ 協調性やコミュニケーション能力が育つ

幼児期は、多くの友達とかかわりながら遊ぶことを通して、ルールを守り、自我を抑制し、コミュニケーションを取り合いながら協調・協働、特にルールのある遊びやスポーツなどは、社会性を育てる契機を与え、また、体を動かして遊ぶことは、爽快感や達成感を味わいながらのストレス発散にもつながる。

⑤ 認知的能力の発達にも効果がある

運動を行うときは状況判断から運動の実行まで、脳の多くの領域を使用する。すばやい方向転換などの敏捷な身のこなしや状況判断・作戦などの思考判断を要する全身運動は、脳の運動制御機能や知的機能の発達促進に有効であると考えられる。幼児が自分たちの遊びに合わせてルールを変化させたり、新しい遊び方を創り出したりするなど、遊びを質的に変化させていこうとすることは、豊かな創造力も育むことにもつながる。

(4) 幼児期の運動面における発達

幼児期は、神経系の発達が著しく、図3のスキヤモンの発達曲線からも分かるように5歳までに成人の80%にまで発達する。よって、この時期は、様々な神経回路が形成されていく大切な時期であり、多様な運動を経験させることで、脳の配線化が進み調整機能、記憶、運動機能が発達する。したがって、基本的動作の習得に適しており、この基本的動作を繰り返し行うことで動作が洗練化され、スムーズな動きができるようになってくる。

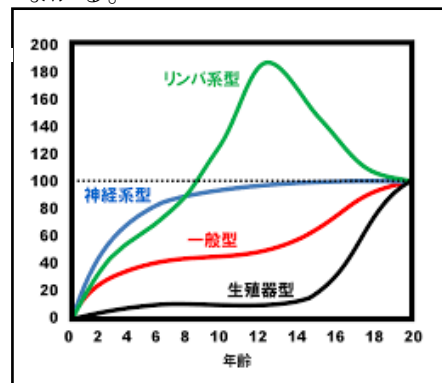


図3 「スキヤモンの器官列発育曲線」 Scammon(1930)

(5) 幼児期の動きの獲得の考え方

幼児期は、生涯にわたって必要な多くの運動の基となる多様な動き(表2)を幅広く獲得する非常に大切な時期である。この時期には、日常生活や遊びの中で、いろいろな動きを経験することで、基本的な動きのレパートリーやバリエーションが拡大していく(動きの多様化)。さらに、その獲得した動きを繰り返し行うことで、無駄な動きや過敏な動きが減少し、動きが上手になっていく(動きの洗練化)。

表2 幼児期に経験する基本的な動きの例 「幼児期運動指針ガイドブック」文部科学省(2012)

体のバランスをとる動き	<ul style="list-style-type: none"> ・立つ ・座る ・転がる ・起きる ・ぶら下がる ・回る ・寝ころぶ
体を移動する動き	<ul style="list-style-type: none"> ・歩く ・走る ・跳ぶ ・這う ・跳ぶ ・すべる ・登る
用具などを操作する動き	<ul style="list-style-type: none"> ・持つ ・蹴る ・運ぶ ・投げる ・こぐ ・押す ・引く

6 多様な動きが経験できる運動遊びとは

杉原隆、河邊貴子(2014)は「多様な動きの体験は子どもの発意としての活動である遊びのなかで保障されるものであり、保育において、子どもが体を動かしたくなるような環境の構成をすることは極めて重要である」と述べている。幼児が興味や関心を持って繰り返し遊んでいく遊びや活動などを、身体諸機能の発達の視点から捉え直し、幼児が十分に全身を動かし、その心地よさが味わえるようにすること。固定遊具にも幼児の遊びに応じて工夫を加えたり、様々な動きを引き出せるような遊具や用具の配置、幼児の動線を予想した場の構成にも気を配る必要がある。

(1) 好きなものになりきって遊ぶ中で

忍者やアニメの主人公になって鬼ごっこをしたり、修行をしたりして遊んだり、いろいろな動物になってのびのびと表現したりする。このような遊びの中で、ジャンプする、登る、伸ばす、避けるなど、多様な動きを経験し獲得することができると思う。

(2) 音楽に合わせて遊ぶ中で

リトミックやリズム遊び、ダンスなど音楽に合わせて体を動かしたり、のびのびと表現しながら、楽しく多様な動きを経験できると考える。

(3) 遊具で遊ぶ中で

大型積み木、巧技台、マット、縄、フープ、ボールなどを使用して遊ぶ中で、操作したり、バランスをとったり、力加減をコントロールしたりする。また、友達と一緒に作ったり、片付けたりする中で、持ち上げたり、バランスよく運んだりするなど、多様な動きの経験につながる。さらに、構成の仕方を工夫し様々な動きにつなげ、難易度を上げることで達成感や充実感も味わえると思う。

(4) 固定遊具で遊ぶ中で

滑り台や雲梯、鉄棒等の遊具を使った遊びは、高度なバランス感覚、安全に身をこなす能力などの調整力が養われる。布やゴムなどを加えることで様々な遊びが生まれ、多様な動きが引き出される。また、技を示したイラストを掲示したり、色の違うビニールテープをつけることで〇色まで頑張ろうという挑戦意欲がかき立てられると思う。

(5) 身近な物を使って遊ぶ中で

新聞紙、ペットボトル、ゴムなどを使って手作りの遊具を作って遊んだり、自分たちで遊び方やルールを決め、集団遊びやゲームなどを展開していく。このような遊びを通して、友達とのかかわり方や、ルールを守る大切さなども経験し、学んでいくと思う。

7 運動遊びに関する年間指導計画

発達過程		3歳児	4歳児	5歳児
		<ul style="list-style-type: none"> 全身を使って、自然や様々なものと関わったり、友達と一緒に遊んだりすることを楽しむ時期 基本的な運動機能（またぐ・蹴る・投げる・引っ張る・転がる・ぶら下がる）が伸び、全身運動や指先を使った遊びができる時期 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達と一緒に体を動かしたりして遊んだり、様々な活動に進んで取り組む時期 運動量の多い遊びやバランスのとれた運動に挑戦する時期 	<ul style="list-style-type: none"> 全身運動が滑らかになるとともに、手や指の動きは細やかになる。また、友達同士で知識を生かし創意工夫しようとしながら、自信や安定感をもって活動し、充実感を味わう時期 友達と一緒に感じたこと、想像したことを発展させながら運動遊びをする時期
ねらい	I期 4~5月	○教師と一緒にかけっこをしたり、気に入った遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。	○教師や友達の動きを見て、同じように体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。	○友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを味わう。
	II期 6~8月	○固定遊具や巧技台を使って遊ぶことで、いろいろな体の動きを楽しむ。 ○プール活動や水遊びを通して水に親しむ。	○用具や遊具の使い方を知り、組み合わせて遊ぶ楽しさを味わう。 ○プール活動や水遊びを通して、水の中での動きを楽しむ。	○用具や遊具の使い方がわかり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ○プール活動や水遊びを通して、全身を使って遊び解放感を味わう。
	III期 9~12月	○教師や友達と一緒に挑戦遊びに取り組む楽しさを味わう。	○自分なりの目標をもって、積極的に体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○いろいろな挑戦遊びに取り組む中で、体をおもいきり動かす心地よさを味わう。	○自分なりの目的をもっていろいろな挑戦遊びに取り組む達成感や充実感を味わう。 ○競いあったり応援しあったりして、全身を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
	IV期 1~3月	○教師や友達と一緒に簡単なルールに沿って体を動かして遊ぶことを楽しむ。	○友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。	○友達と積極的に体を動かす遊びに取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。
主な運動遊び 【☆Ⅱ期まで継続する遊び ★時期にあった遊び】	I期 4~5月	☆固定遊具（ブランコ・滑り台・アスレチック遊具） ☆鉄棒（ぶら下がる・上がる・下りる） ☆集団遊び（オオカミさんいま何時・だるまさんがころんだ等） ☆鬼ごっこ（一人鬼・影踏み鬼等） ★ふれあい遊び ★園庭散策 ☆大型積み木等	（雲梯・登り棒） （足抜きまわり・ぶたの丸焼き・ふとんほし・つばめ） （ハンカチ落とし・しっぽとり等） （色鬼・高鬼・氷鬼・増やし鬼等）	（前まわり・こうもりさがり・逆上がり・地球まわり） （助け鬼・バナナ鬼・島鬼等）
	II期 6~8月	☆身近な素材を使った遊び（微細運動等） ☆巧技台（はしご・滑り台・階段・ビーム・平均台・とんねる等） ★水遊び ★ボディペインティング	（ワニ歩き・ロケットジャンプ・水中電車・水中じゃんけん等）	（顔つけ・バタ足・体を浮かせる等）
	III期 9~12月	★運動会ごっこ（ダンス・玉入れ・綱引き・かけっこ・エイサー等） ☆挑戦遊び{ぼっくり・けんぱ・フープ（グーパー・両足跳び）・長縄（跳ぶ・またぐ・跳び超える）} ※縄は床に置いたまま遊ぶ。	竹馬・短縄（前跳び）・フープ（まわす・電車ごっこ）・長縄（跳び越える・くぐる・またぐ・郵便屋さん・大波小波）	（リレー） ホッピング・短縄（走り跳び・後ろ跳び・交差跳び）・長縄（入り込み跳び）
	IV期 1~3月	☆ボール遊び（下投げ・上投げ・両手投げ）	（円形ドッジボール・転がしドッジボール）	（ドッジボール・サッカー）

本研究では、これらの内容を土台にして、多様な動きが経験できる運動遊びの保育実践を通し、進んで体を動かすことを楽しむために有効な環境構成や援助の在り方を探していきたい。

VI 指導の実際

1 検証保育 I

(1) 活動名 「冒険へ行こう」

(2) ねらい

- ① さまざまな運動遊具に関わり、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- ② 自分なりに動きを工夫し、のびのびと体を動かす運動遊びを楽しむ。

(3) 活動設定の理由

幼稚園教育要領「健康」のねらいでは、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする」と示されている。幼児が体を十分に動かしたり、楽しんで取り組むには、動線に配慮した環境を工夫することで興味を持ち、自分なりに考え工夫したり、繰り返したりしながら体を動かす楽しさや充実感を味わい、次への意欲につながると考える。

そこで、子どもたちが試してみたいくなるような運動遊びの環境を子どもたちの興味・関心に添いながら一緒に作ることで、運動遊具に関わり、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるであろうと考え、本活動を設定した。

① 幼児の実態（省略）

② 教材観

本活動は、おもに、健康の内容「(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす」「(3) 進んで戸外で遊ぶ」「(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む」を組み合わせて構成している。幼児が興味を持って運動遊びに取り組むような環境を工夫することで、体を動かすことに充実感や満足感を味わい、体を動かして遊ぶ楽しさを体得していくことが大切であると考える。自分達で考えを出し合って作った遊びの場では自分なりに動きを工夫し、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができるのではないかと考える。

③ 指導観

本時において、幼児のもつこれまでの運動遊びに対する苦手意識にとらわれることなく、運動遊具を活用しての遊び方、多様な動きを知り、体を動かす楽しさを味わうことができる活動となるように計画していく。そのために「冒険へ行こう！」では、「くぐる・はう・跳ぶ・ぶらさがる」など体を動かして遊ぶ活動を取り入れることで興味・関心をもち、意欲的に遊べるよう以下のような援助を行う。

ア 友達と環境を作る場面では、冒険のイメージを大切にしながら、一人一人のつぶやきや思いを受け止め、幼児の発想、工夫などに共感する。

イ 友達と相談しながら遊びを進める様子を見守り、頑張っている姿を捉えて楽しさや喜びに共感したり、さらに意欲が湧くような声かけをしたりしていく。


ウ 体を動かして遊ぶことに苦手意識のある子には、特に配慮をし、これまでと比べて変容している点や挑戦しようとしている姿を見逃さずに認め、褒め、自信につなげる援助をする。

エ 活動後の振り返りでは、動きの工夫が見られた幼児を紹介したり、一人一人の姿を認めたりすることで、自信につなげられるような場にしていく。

(4) 保育計画

	月 日 保育活動	◎ねらい	(場所) ◇教師の援助☆環境構成	○幼児の姿●反省、課題
1	11月11日(水) <u>新聞紙で遊ぼう</u> ・身近な素材を使って様々な動きを楽しむ。 ①新聞紙ランナー ②投げてキャッチ ～2人ペアになる～ ③転がしてキャッチ ④投げてキャッチ	◎身近な素材(新聞紙)を使い、体を動かす楽しさを味わう。	(遊戯室) ◇一人一人の動きを把握し、新しい動きが見られた時は、周りの子にも知らせる。 ◇遊びの様子を見ながらレベルアップし、多様な動きが経験できるようにする。 ◇ペアになる遊びは、声をか	○子どもたちから、「上に投げる」「前に投げる」「転がす」「落とす」という動きのキーワードを出すことができた。 ●振り返りの時に、子どもたちから出てきた動きを紹介することができなかった。子どもたちの

	⑤寝転んでよける		けあい、相手のことを考えて力加減をコントロールできるような声かけをする。	動きを予想して、時間配分をし、進めていく。
2	11月13日(金) 縄・フープで遊ぼう ・縄やフープを使って様々な動きを楽しむ。 【縄】※縄は伸ばして床に置く ①縄の方を向いて跳ぶ ②横にジャンプして縄を跳ぶ ③前後にジャンプして縄を跳ぶ ④少し高くして①～③に挑戦する 【フープ】 ①フープダウン ②フープくぐり ③フープなわとび ④転がしキャッチ ⑤フープ送り	◎縄やフープを使った運動遊びで、いろいろな動きを知る。 	(園庭) ◇縄やフープを使った様々な動きを楽しみながら、縄やフープに興味や意欲が高まるような声かけをする。 ◇一人一人の発達の過程に合わせて遊びの内容を工夫していく。 ◇動きがごちない子の側でアドバイスをしたり、一緒にやってみたり、個の発達に応じた援助を行う。 ☆広さに合った人数で遊びを進める。 ☆安全面には十分配慮しながら、遊びが楽しめるようにする。	○子どもたちからレベルアップの技(片足フープくぐり)が出た。3人1組としたことで考えを出し合うことができたようである。 ○何回か繰り返していくうちに動きが安定していく姿が見られ、子どもたちも動きを体得し楽しんでいた。 ●経験させたい動きができず活動の計画に無理があった。幼児の生活の流れや、姿を捉えて活動を進めていく。
3	11月16日(月) 冒険会議① 絵本「アブナイかえりみち」で導入 ・グループで1つ運動遊具の種類を決める。 ・コース作りをする。	◎自分達の考えを出し合って、遊び場を作る楽しさを味わう。 	(教室) ☆絵本を導入として活用し、運動遊びの環境を子どもとともにつくることで興味、関心が高まるようにする。 ☆材料を準備し、使いやすいように配置する。 ◇互いにアイディアを出し合ってコース作りができるよう援助を行う。	○絵本からイメージを広げることができたようで、全員興味を示すことができ冒険ごっこ話し合いに発展することができた。 ●何をしたらよいか他児を傍観している子もいるので、教師の援助としてグループ内でイメージを共有する必要がある。
4	11月17日(火) 冒険会議② ・コース作りをする。	◎自分達の考えを出し合って、遊び場を作る楽しさを味わう。	(教室) ◇友達と一緒に作る楽しさを味わえるようにする。 ◇幼児の発想や思いを受け止め、認めたり褒めたりしながら、興味・関心が高まるようにする。	○グループ内でイメージを共有する場を作ったことで、アイディアを出し合う姿が見られた。 ○「早く続きをやりたい」という声が聞こえたり、積極的に取り組んだり姿が見られた。
5 6	11月18日(水) 11月19日(木) 冒険会議③・④ ・コース作りをする。 ・コースのネーミングをする。	◎自分達の考えを出し合って、遊び場を作る楽しさを味わう。	(教室) ◇自分達でコース作りが展開できるように援助する。 	○前日に、コース名を考えることを投げかけたので、話し合いはスムーズにできていた。 ○個々の考えを出し合い、キーワードとなる言葉をくっつけあってコース名を考えていた。
7	11月24日(火) 冒険会議⑤ ・コースを設置する。 ・明日の活動への思いを発表する。	◎本時への活動に見通しをもちながら遊びを楽しむ。	(園庭) ◇本時への期待の高まりに共感する。	○どのようなコースになるのか期待感をもって話を聞いている子が多かった。 ○コースを設置する時には、イメージしたことを伝え、友達同士で相談しながらコースを準備していた。 ○「早く冒険に行きたい」という声が聞こえた。 ○振り返りの際、挑戦してみたい動きや、目標とする動きが言葉で出てきたので、本時への期待の高まりが感じられる。

8	11月26日(木) 冒険へ行こう! ・本時	◎さまざまな運動遊具に関わり、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ◎自分なりに動きを工夫し、のびのびと体を動かす運動遊びを楽しむ。	(園庭) ☆喜んで取り組み、達成感や満足感を味わえるようカードとシールを用意する。 ◇頑張っている姿や工夫している姿を認め、他の幼児に知らせていく。 ◇一人一人の動きを把握し、認め合う場面を捉え互いに共感しあって遊べるように援助する。	○ほとんどの子が、時間をかけて挑戦している様子が見られる。(特に自分で作ったコースは何回も挑戦している子が多い) ●1グループだけが全部のコースを回ることができなかった。遊ぶ時間を設定すると、全コース回ることができたのではない。
9	12月4日(金) また冒険へ行こう! ・余韻を味わい、友達や異年齢と一緒に動きを工夫して遊ぶ。	◎友達や異年齢と一緒に冒険ごっこを楽しみ、満足感や充実感を味わう。 	(教室・遊戯室) ◇作ったコーナーで、ルールを守りながら、運動遊びに挑戦する姿がみられた時には褒める。 ◇新しい動きがみられた時は、他の幼児にも知らせていく。 ◇友達や異年齢と一緒に体を動かす楽しさを共有し、満足感や充実感が味わえるようにする。	○自分達が考えた遊びの場ということで、異年齢に動き方を教えたり、手を差し伸べて励ましの声をかけたりする場面が見られた。 ○前回と同じ動きではなく、新たな動きのアイデアを出して遊ぶ姿が見られた。

(5) 本時の展開

指導案(本時の展開)

令和2年11月26日(木) うるま市立具志川幼稚園 1組 27名(男児13名 女児14名) 保育者 久高 圭乃			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外では興味のある運動遊びに進んで関わる子、しっぽとりゲームや鬼ごっこを楽しむ子もいるが、運動的な遊びに対し苦手意識を持っている幼児もいる。 ・室内では、製作遊びを通して自分のイメージを表現したり、友達が作っているものを真似たりして思い思いに製作を楽しむ姿が見られる。 		
ねらい	◎さまざまな運動遊具に関わり、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ◎自分なりに動きを工夫し、のびのびと体を動かす運動遊びを楽しむ。		
活動仮説	自分達の考えを出し合って構成した運動遊びの場において、幼児の思いを受け止め、意欲がわく言葉かけや、自分の力に応じて試したくなるような環境構成にすることで、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができるであろう。		
時間	○予想される幼児の活動	☆環境構成 ◇教師の援助	🌸評価項目
9:15	○教師の話聞く。 ○リズムにあわせて踊る。	☆各コーナーで必要な物を事前に準備しておくことで、遊びの中でイメージできるようにする。 ◇前日までの活動を振り返り、イメージを共有して今日の遊びへの意欲につなげていく。 ◇十分に体をほぐしながら、活動への期待を高めていけるようにする。 ◇安全面の配慮事項を確認し、守れるようにする。 ☆3人組の構成は、友達関係の読み取りや予想される関わりを基に予め教師が行う。 ☆喜んで取り組み、達成感や充実感が味わえるように、カードやシールを活用する。 ☆スタート地点をグループごとに設けることで、待ち時間を作らないようにする。	🌸興味・関心をもって教師の話聞いているか。 🌸喜んで活動に参加しているか。
10:00	○三人一組になりコースを回りながら運動遊びに挑戦する。	◇「挑戦したい!」という思いを大切に、どのように体を動かすとよいか動きのポイントを伝えたり、補助したりする。 ◇危険な動きになっていたり、遊び方が雑になっていたりする幼児には、個別に声をかけて安全に遊べるよう配慮していく。 ◇その子にとってやってみたくなる状況や方法を工夫する。	🌸自分なりに考えて体を動かしているか。
10:20	○楽しかったこと、工夫した動き、難しかったこと等発表する。 ○片付けをする。	◇幼児の「先生、見て」の言葉に丁寧に答え、できた喜びに、認めや共感の言葉をかけていく。 ◇幼児の工夫した動きや、頑張りを認め、自信や意欲につなげるようにする。	🌸友達の動きに刺激を受けて、運動遊びに挑戦しているか。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・運動遊具を使って、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができたか。 ・自分なりに動きを工夫し、体を動かす運動遊びに取り組むことができたか。 		

(6) 環境構成

①鉄棒	②トンネル	③ぼっくり	④平均台	<p>❖子どもたちは、冒険カードを持ってサーキットになっている各コーナーで遊ぶ。 ❖挑戦するとカードにシールを貼っていく。</p>
⑤的あて	⑥短縄	⑦雲梯	⑧けんぱ	

遊び 「子どもたちが考えたネーミング」 (基本動作の種類)	☆環境構成のポイント ♥動きの工夫 (多様な動き)
①鉄棒 (立つ・ぶらさがる・つかむ)	☆鉄棒の技を表示することで挑戦意欲を高める。 ♥ぶら下がりダンス・足だけブランブラン・ナマケモノごっこ・スズメさんひとやすみ・前まわり・おふとんほし・足抜きまわり・逆あがり
②トンネル 「暗いけどまっすぐ進んでね」 (はう・くぐる)	☆出入口にスズランテープをつけたり、トンネル内外に装飾を加えたりして雰囲気作りをする。 ☆動きの工夫を表示することで、多様な動きが経験できるようにする。 ♥犬歩き(手と両膝をつける)クマ歩き(膝はつけず手の平と足裏をつける)ワニ歩き(手の平とお腹をつける)
③ぼっくり 「ジャンプ ぼっくり」 (歩く・引く)	☆コースの周りに障害物を置き雰囲気作りをする。 ♥ジグザクラインやストレートラインを書く
④平均台 「マグマに気をつける上にも何かいるよ」 (渡る)	☆サイドに障害物を置き雰囲気作りをする。 ♥障害物を置く ♥片足10秒ポーズ
⑤的あて 「だんご虫ボールでクモをとばしてね」 (投げる・当てる)	☆距離を長くしたり、的やボールの大きさを変えたりし、幼児が自分で考えて徐々にレベルアップできるようにする。 ♥距離のバリエーション
⑥短縄 (跳ぶ)	♥跳べない子は、縄を地面に置いて横跳びや、前後跳びをする
⑦雲梯 「何回でもチャレンジできるよウキウキコース」 (つかむ・跳ぶ・ぶらさがる)	☆途中に障害物をさげたり、数字を表記したりすることで目標が持てるようにする。 ♥進めない子は、ぶらさがったり、着地点にジャンプしたりする。
⑧けんぱ 「よけて進もう何があるかな」 (跳ぶ)	☆けんぱ(ミニフープ)に装飾をすることで雰囲気作りをする。 ♥片足けんぱやグーパーで進む。
⑨フープ (立つ・振る・跳ぶ・転がす)	♥まわすことができない子は跳んだり、転がしたりする。

2 仮説の検証(検証保育Ⅰ)

(1) 具体仮説1の検証

園庭や遊戯室を活用し、①固定遊具や運動遊具を使った遊びを工夫することで、②多様な動きを身につけ体を動かす楽しさを味わえるであろう。

① 固定遊具や運動遊具を使った遊びの工夫

ア クラス全員で体を動かす遊びに取り組めるよう、遊戯室ではフープや縄、新聞紙を使った遊びを段階的に取り入れ、いろいろな動きを経験できるようにする。



フープくぐり



新聞紙ボール投げ

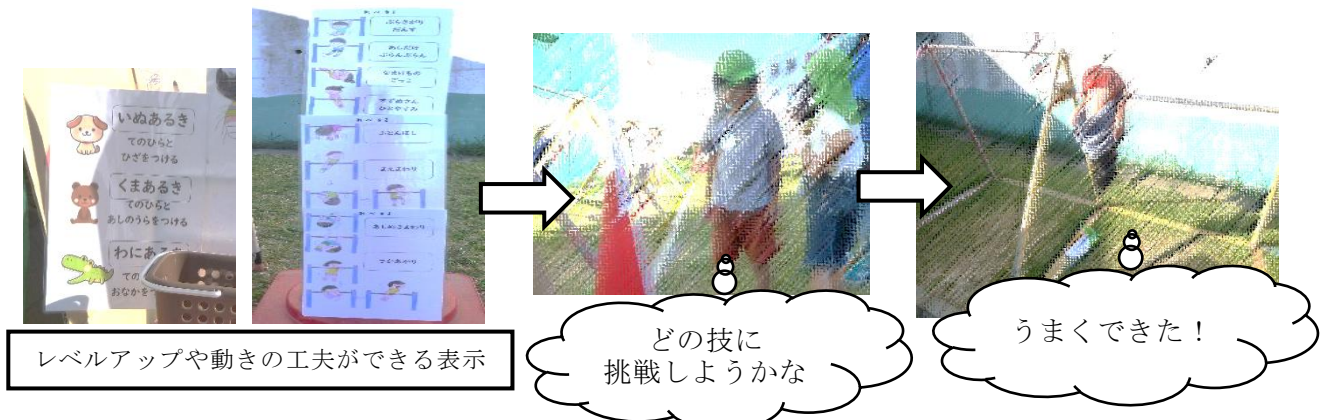


短縄ジャンプ

イ 幼児と一緒に遊びの場を作り、「冒険へ行こう」とストーリー性を取り入れ、自然に挑戦することのできるサーキット形式の環境を構成したり、興味を持てるようコースのネーミングを考え、オリジナルの表示を作成したりする。



ウ 雲梯には、目標を持てるように数字の表記をし、鉄棒、短縄ではレベルアップできる技の表示、的当てやぼっくりでは距離のバリエーション、とんねるやフープでは挑戦意欲が高まるよう動き方の表示を工夫する。



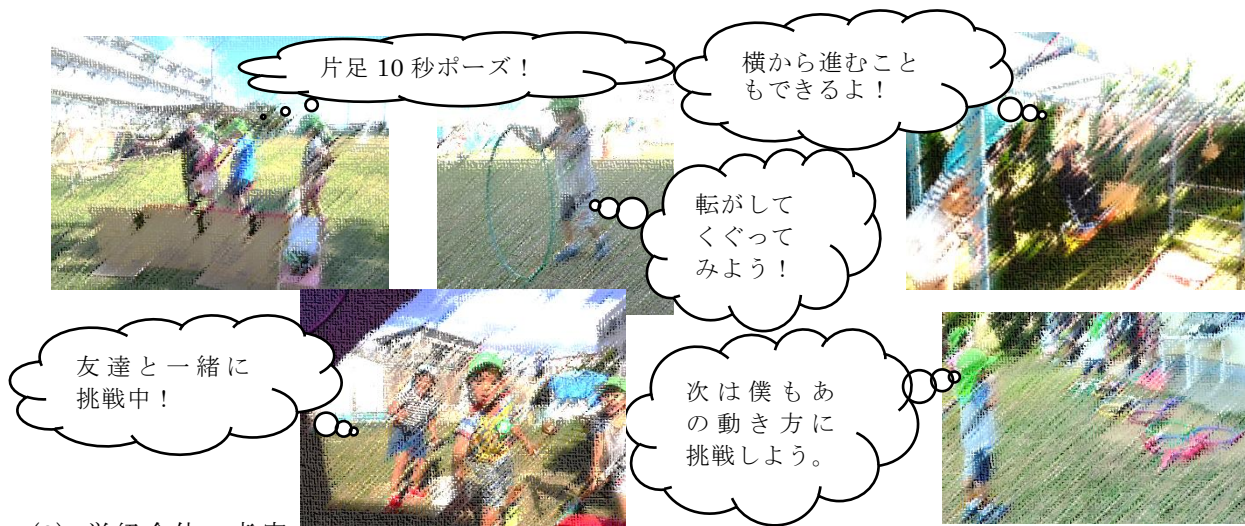
② 多様な動きを身につけ、体を動かす楽しさを味わう

本時の活動で経験した多様な動きは12レパートリーあり、幼児の考えた動きや遊び方を認め褒めたことで、幼児は自分なりに動きを工夫して新しい動きを発見する姿が見られた。

また、友達と一緒に挑戦したり、教えあったり、協力したりする場面を大切にし、楽しさや心地よさを共感することで「もう一回やってみよう」という幼児同士の会話や、繰り返し挑戦する姿が見られた。振り返りの時間に「平均台でハイハイをして進んだことが楽しかった」「次も、友達と一緒に全部挑戦したい」等、友達と楽しさを共感しあう声も聞こえた。

表3 幼児が考えた多様な動き

遊びの種類	本時の活動で幼児が考えた多様な動き
ぼっくり	小走り・横向き・ジャンプ
平均台	片足けんけん・はいはい・横歩き・片足10秒ポーズ・ジャンプ
雲梯	横進み・一本とばし
けんぱ	一個とばしけんけん
フラフープ	手足で回す・片膝をつけて回す・複数使用して回す・くぐる・転がす



(2) 学級全体の考察

幼児が考えた遊び場なので、傍観したり途中で諦めたりすることなく自分のペースでいろいろな動きに挑戦することができた。繰り返し動きを試すことで、徐々に動きのぎこちなさが減少し、力加減やバランス感覚がよくなり、自分で新しい動きを考え挑戦する姿が多く見られるようになったと考えられる。幼児が遊びたいような環境を整え、相談しながら遊びの場を作っていくという手立てが、幼児の主體的な活動を促すことに効果的だった。

幼児の考えた動きや遊び方を教師が認め、褒めたことで動きを自分なりに工夫することによって、新しい動きを発見し、その動きや基礎となる感覚を獲得していったと思われる。このことから、多様な動きが身につき、「動く楽しさ」から「動ける楽しさ」へと変化し、さらなる意欲につながったと考えられる。

(3) 幼児への聞き取り調査の結果と考察

今回、検証前の10月と1回目検証後の12月に「幼稚園で楽しい遊びは何ですか？」という質問を行った。検証保育前は、ブロック遊びや虫捕りと答えた子が10名だったが、検証後は2名だった。その他の子は鉄棒や雲梯などの固定遊具、短縄やフープの運動遊具を使っての遊びが楽しいと答えた。「冒険へ行こう」の取り組みが、体を動かすきっかけとなり幼児の「挑戦してみよう」という意欲を刺激し「できた」ことを実感することで「もっと記録を伸ばしたい」という気持ちが生まれる過程があったと考えられる。その結果、運動の回数が増え体を動かす楽しさを味わっているものと考えられることから、環境構成は効果的であることが分かった。

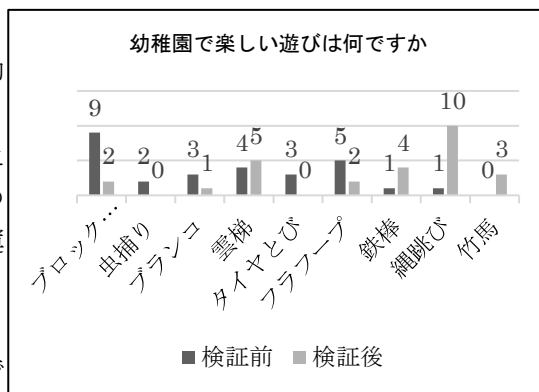


図4 幼児への聞き取り調査

(4) 抽出児の考察

本研究においては特に抽出児3名に視点をあて、遊びに取り組む行動や発言を観察しながら変容をみていく。

- (A児) 園での遊びや活動に興味・関心はあるものの、間違えや失敗を恐れ、不安を口に出すことが多い。運動遊びへ取り組む姿も見られない。
- (B児) 自分が好きな遊びや活動には取り組むが、興味のないものには関心が薄く参加しないこともあり、運動遊びにはまだ興味を示していない。友達と適切に関わることができず一人で遊んでいることが多い幼児。
- (C児) 周りの反応に対して過敏で、自分の思いを素直に表現することができない。運動遊びに苦手意識を感じている幼児。

抽出児の様子 教師の援助・教師の思い

保育実践1

11月11日(水) 「新聞紙で遊ぼう」から

- A児・・・新聞紙を使つての遊びということに興味を示している様子。上投げ、下投げの両方を試している姿を認めると、遊びが進むにつれ笑顔も見られた。
- B児・・・新聞紙ボールの奪い合いでトラブルになったが、続けて遊びに参加してほしいと思い、他のボールを渡すと気持ちを入れかえ、その後も遊びを進めることができた。
- C児・・・動きがぎこちないが、友達の動きを見て、真似していいよと声をかけると、繰り返し試す姿が見られた。

【変容】

一斉活動であったため、A児とB児は参加できたと考えられる。
 トラブルが起きたB児は、新聞紙ボール遊びに興味をもって参加していたので、遊びを続けることができた。
 C児は動きに自信がなさそうであったが、教師や友達の動きを真似てみるよう促したことで、最後まで参加することができた。



友達の動きを真似ながら新聞紙ボールを落とすC児



転がすよりも、上投げが遠くに飛ぶことを発見したA児

保育実践2

11月13日(金) 「縄やフープで遊ぼう」から

- A児・・・「できないから、やりたくないな」という声が聞かれたので「今日は誰こでもできる新しい遊びだよ」と安心できるような声をかけると、説明書に興味をもって聞いていた。その後の遊びも、笑顔が見られ友達と動きを楽しんでいた。
- B児・・・今日もみんなと一緒に最後まで参加してほしいという思いから、遊び方についての説明の時に、フープ遊びの見本を見せる担当にした。グループの友達の動きを見ながら一緒に挑戦する場面が見られた。その後の遊びでは、意図した動きができず戸惑いの声が聞こえたが、友達の言葉を素直に聞き入れ、協力して動きを楽しんでいた。
- C児・・・横跳びや前後跳びができると言ってグループの友達と嬉しそうに笑っていた。教師が「うさぎさんみたいに跳び方だね」と声をかけると何回も跳んで見せた。

【変容】

普段とは違う運動遊具の使い方や、遊び方なので、苦手意識を感じることなく参加できた。
 意図的にB児のいるグループに見本を見せてもらったことで、自信となり意欲が出てその後の活動にも参加することができた。
 C児の嬉しい気持ちを読み取り、他児に伝えたことで共感してもらうことができ、何回も挑戦する姿が見られた。



この跳び方ならできそうだと安心した表情で友達の動きを見ているA児



動き方の説明の時に見本を見せてくれるB児

保育実践3・4・5・6・7

11月16・17・18・19・24日 「冒険会議」から

- A児・・・「クモを狙うと投げやすくなるかな?クモも作る?」「上の穴だけだったら下投げができないから、下にも穴をあげよう?」とアイデアをだしていた。「良いアイデアだね」と声をかけると嬉しそうな表情を見せた。
- B児・・・トンネルの中に入り、作業をしているが思い通りにいかないと、その場から離れてしまう。グループの友達と活動を進めて欲しいという思いから「出入口にも、飾りつけをしてみたら?」と声をかけると興味を示し、装飾を始めた。2回目以降、登園時に「今日も、トンネル作りできる?」と聞いてくる。完成すると、動物の動きで試す姿が見られた。
- C児・・・「困ったときは、いつでも聞いてね」と声をかけていたので、友達の様子を見ながら、本児なりにイメージしたことを伝えながら、装飾をどんどん加えていた。また、動きを試したりする姿も見られた。

【変容】

1回目の冒険会議では、教師に援助を求める場面が見られたが、2回目以降A児のアイデアを取り入れながら、的当て作りを進めていったことで、興味を示しグループの友達と進めることができた。
 B児は、トンネルの中での、動き方を観察し動物に例えていったことで、動きにも興味を持ちはじめた。「今日も、トンネル作りできる?」の質問は、期待感をもっていった。
 冒険会議が始まると、目をキラキラさせているC児。動きをイメージしていることは、興味を示したと考えられる。

保育実践（本時） 11月26日（木）「冒険へ行こう」から

- A児・・・的当てでは、入るまで繰り返し挑戦している。苦手意識をもっていた短縄も挑戦している。挑戦する姿を認め励ましの声をかけると何度も見せてくれた。雲梯では、イメージを膨らませながら挑戦。振り返りの場面では雲梯への目標を発表していた。
- B児・・・フラフープでは保育実践②で行った「転がす」の動きをしていた。トンネルくぐりでは、友達のくぐる様子を見て声に出して笑い、雲梯では障害物にあたらないように素早く進もう友達に提案していた。
- C児・・・平均台で横歩きという動きを考え進んでいた。「新しい動きだね」と声をかけると嬉しそうに笑顔を見せた。振り返りの場面では、次は全部のコースを回りたいと意欲的な発言をしていた。

【変容】

3名とも決められた時間内は体を動かして遊ぶことができた。
A児は、苦手意識をもっていた動きにも挑戦し、体を動かしていた。
B児は友達の様子を見て笑ったり、動きを工夫したりと楽しんでた。
C児は短縄や雲梯のとき「できないよ」と不安な声を出すのが、取り組む姿が見られるので挑戦する意欲が高まった。

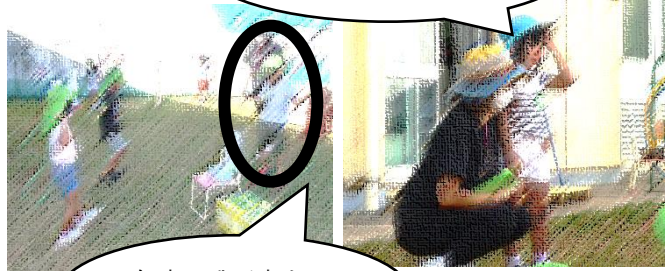
次回へ向け意欲的な発言をするC児



挑戦する前に目標を決めているB児



笑顔で挑戦するB児



友達の跳び方を見て挑戦するA児

これまでの様子から3名とも興味・関心を示し取り組んでいた。実践前は、運動遊びに興味を示さなかったり、できなかったりすると、すぐにあきらめてしまうことが多かった。しかし、興味・関心は何に向いているかを探り、援助の仕方を工夫する様にした。活動を通して多様な動きに興味を示し、実践の中での変容からも分かるように、これまでの活動の中での教師の援助は、抽出児にとって有効であったと考える。これからも、一人一人を理解し、援助をしていく。

3 検証保育Ⅱ

- (1) 活動名 「運動すごろく」で遊ぶ
- (2) ねらい

友達と力を合わせて、動きを工夫したり考えたりしながら体を動かす楽しさを味わう。

- (3) 活動設定の理由

1回目の検証保育では、運動遊具や固定遊具を活用して多様な動きを経験する活動を取り入れたことで、運動遊びに興味を示し、挑戦する子が増え、動きも洗練化された。しかし、幼児同士が力を合わせて考える動きや、微細運動を経験させる点においては、課題を感じた。そこで、今回の検証保育では、子どもたちと一緒に「すごろく」を製作し、マスの内容に友達と協力する動きや、思考をかき立てる動き等、教師の意図を含ませていくことで幼児なりに動きを工夫したり、考えたりしながら遊びを進めることができるであろうと考え本活動を設定した。

① 幼児の実態

冬休み明け、教師や友達との再会を喜び、冬休みの出来事を伝え合っている。戸外では、2学期に経験した運動遊びを継続して楽しんでおり、達成した満足感から教師や友達に伝える姿が見られる。室内では、こま回し、羽つき、かるた、すごろく等のお正月遊びを、体全体を動かして友達と一緒に楽しんでいる。

② 教材観

本活動は、おもに、健康の内容「(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。」環境の内容「(8) 身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。」を組み合わせて構成している。

すごろく遊びは、ルールにそって活動することや、マスにチャレンジ項目を含ませていく

ことで多様な動きを経験したり、仲間との協力を通して体を動かして遊ぶ楽しさを実感することができる活動であると考え。本時において構成するさまざまな遊びを通して、ルールを守って友達と体を動かしたり、動きを工夫したりすることができるであろうと考える。




③ 指導観

ア 本活動において、様々な動きを経験させるために、すぐろくのマスのチャレンジ項目には短縄、フープなどを使用しての全身を使った運動、新聞紙、風船など身近な素材を運ぶ操作運動、デコレーションボール挟みやペグさしなどの手先を使う微細運動などを含めた内容にしていく。

イ 本時では、幼児個々の特性を配慮した6グループを決め、すぐろく遊びを進める中で友達と協力したり、互いに動きを工夫したりすることを通して、様々な動きを体験させたい。そのために、友達と力や知恵を出し合い、動きを楽しんでいる場面を捉えて、子どもたちの姿を認めていきたい。また、繰り返し試したり、試行錯誤したりする姿を見逃さず、必要に応じて援助することで楽しさや達成感が味わえるのではないかと考える。

ウ 活動後の振り返りでは、本時の活動での幼児の思いや工夫した動きを聞き、自分や友達の様子を振り返り、自信へとつながる場、次の活動への期待を高める場にしていきたい。

(4) 保育計画

	月 日 保育活動	◎ねらい	(場所) ◇教師の援助☆環境構成	○幼児の姿●反省、課題
1	1月19日(火) <u>身近な素材を使って遊ぼう</u> ・身近な素材を使って操作運動を楽しむ。 ①新聞紙で風船運び ・新聞紙を広げ、上に風船をのせて風船を落とさないように運ぶ。 ②風船リフティング ・グループで手をつないで、円を作り、風船を落とさないように手や頭ではじく。 ③スプーンリレー ・スプーンやおたまにのせたボールを運ぶ。	◎友達と協力して動きを工夫したり、協力したりすることの楽しさを知る。 	(遊戯室) ◇動きの工夫や友達と協力している動きが見られた時は、周りの子にも知らせる。 ☆挑戦意欲がかき立てられるよう、大きさの違う素材を用意する。 ☆安全面には十分配慮しながら、遊びが楽しめるようにする。	○何回も繰り返し遊んでいたのに、楽しさを感じていたり、色々な動きを試したりすることができたと思われる。 ●遊戯室が狭かったため、動きが制限され、のびのびと動きを引き出すことができなかった。 ●風船リフティングは、実際お手本を見せてイメージを持たせると、動きをスムーズに出すことができたと思われる。
2	1月21日(木) <u>生活に必要な物を使って遊ぼう</u> ・生活に必要な物を使って微細運動・操作運動を楽しむ。 ①デコボールつかみ ・サイズの違うお箸やトングを使って、デコレーションボールを移動する。 ②洗濯ばさみマッチング ・台紙に書かれた数字と同じ洗濯ばさみをはさむ。 ③ペグさし ・大小色分けされたペグ(ストロー)を穴の大きさや色に合わせて差し込む。 ④紙コップタワー ・タワーを作る。	◎指先、手を使った細やかな動きを楽しむ。 	(教室) ◇経験差が出てくると思われるので、苦手な子には、そっとサポートする。 ◇うまくできた時の喜びを認め、褒め自信につなげる。 ☆自分の力を試そう、挑戦しようとしている子を応援できるような雰囲気を作る。 ◇体のいろいろな部位と連動するような手指の動きができるよう援助する。 ◇繰り返し挑戦する姿を褒める。	○子どもたちから、動きを引き出せたことは良かった。 ○活動中、立ち歩くことがなかったこと、終了の合図まで何回も繰り返し遊んでいたことから興味を持ったと思われる。 ●4種類ある教材のローテーションの仕方を、最初できちんと組んでおくべきであった。
3	2月3日(水) <u>すぐろく作り①</u> ・話し合い活動をする。 ・すぐろく作りをする。	◎グループで相談して、オリジナルすぐろくを考え作ることに期待を持つ。 	(教室) ◇「オリジナルのすぐろくを作ろう!」と話し、期待感を持たせる。 ☆チャレンジ項目のマスは事前に用意する。 ◇互いにアイディアを出し合えるよう、すぐろくの設計するイメージが浮かびやすいように必要に応じてアドバイスをする。	○すぐろく遊びを楽しんでいる子が多いので、自分達ですぐろくを作ることに興味を示していた。 ●お互いのイメージを共有することができず、話し合い活動が進まないグループもあった。

4 ・ 5	2月4日(木) 8日(月) すごろく作り②・③ ・すごろく作りをする。	◎友達と一緒に工夫したり、考えたりしてすごろくを作る楽しさを味わう。	(教室) ◇手作りの良さを感じさせるために、絵を描いたり飾り付けをしたりする。	○必要に応じて、イメージを共有できるよう援助したことで、すごろく作りを進めることができていた。
6	2月10日(水) すごろく作り④ ・すごろくの置き場所や、チャレンジ項目の場所を設置し、試してみる。	◎本時への活動に見通しをもちながら遊びを楽しむ。	(体育館) ◇試しに遊ぶことで、本時への期待を高めたり、変更点はないか確認したりする。 ◇ルールを守って遊ぶことができるよう、遊び方の約束を明示する。 ◇安全面に十分気を付ける。	○どのように、すごろく遊びを進めていくか期待をもって、準備をしている子が多かった。 ●限られた時間であったため、時間の調整をしっかりとる必要がある。
7	2月16日(火) 運動すごろくで遊ぼう！ ・本時	◎友達と力を合わせて、動きを工夫したり考えたりしながら体を動かす楽しさを味わう。	(体育館) ◇ルールを守りながらゲームが楽しめるようにする。 ◇安全面に十分気を付ける。 ◇一人一人の動きがきちんとできているか見守る。 ◇運動遊びを基本としていることを心掛け、良い動きをしている子を他の子にも知らせる。	○友達と力をあわせる動きが出たり、動きを工夫したり、考えたりする姿が見られた。 ○上手に動けるようになった全身運動には、何回も繰り返し挑戦する姿が見られた。できない子も挑戦しようとする意欲が見られた。

(5) 本時の展開

指導案(本時の展開)			
令和3年2月16日(火) うるま市立具志川幼稚園 1組 28名(男児13名 女児15名) 保育者 久高圭乃			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな正月遊びに興味を持ち、繰り返し遊ぶことや、正月遊びをする中で友達とかかわることを楽しんでいる。 ・園庭では、2学期に挑戦していた遊びに繰り返し取り組もうとする子の姿が見られる。 		
ねらい	◎友達と力を合わせて、動きを工夫したり考えたりしながら体を動かす楽しさを味わう。		
活動仮説	すごろく遊びの場において、友達と協力しなければできない動きや、動作を工夫するような動きを取り入れることで多様な動きを経験し、遊びながら体を動かす楽しさを味わうことができるであろう。		
時間	○予想される幼児の活動	☆環境構成 ◇教師の援助	🌸評価項目
9:20	○教師の話聞く。 ○すごろくのやり方確認する。 ①さいころを振る。 ②こまを進める。 ③「チャレンジ」をする。	☆チャレンジ項目に必要な物を事前に準備しておく。 ◇前時までの流れを振り返り、本時の活動に期待がもてるようにする。 ◇楽しく「運動すごろく」ができるよう全体の流れを把握する。 ◇一人一人の動きがきちんとできているか見守る。	🌸興味や関心をもって教師の話聞いているか。 🌸喜んで活動に参加しているか。
9:30	○運動遊びすごろくをする。 ※すごろくにある「チャレンジ項目」の主な内容 ・全身運動(短縄・フラフープ) ・操作運動(新聞紙で風船運び・箱つみ・紙コップタワー・スプーンリレー) ・微細運動(ペグさし・洗濯ばさみマッチング・デコレーションボールつかみ)	☆チャレンジ項目は、読んですぐ理解ができるような文にしたり、イラストや写真を入れたりする。 ☆遊びへの期待を高めるために、操作運動や微細運動で使用する素材の大きさや形は、数種類用意し、選択できるようにする。 ◇自信をもって活動できず戸惑っている子には、動きのポイントを伝える。 ◇安全面への注意を促しながら遊びを進めていく。 ◇運動遊びを基本としていることを心掛け、良い動きをしている子を他の子にも知らせる。 ◇多様な動きがうまれるような言葉かけをする。	🌸意欲的に体を動かしているか。 🌸友達と一緒に動きを考え、協力して体を動かしているか。
10:00	○楽しかったこと、工夫した動き、難しかったこと等発表する。	◇幼児の工夫した動きや、頑張りを認め、自信や意欲につながるようにする。	🌸次の活動に期待を持たせることはできたか。
10:20	○片付けをする。	◇動きを共有することができるよう、よい動きをしているグループを全体で紹介する。	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と力を合わせて、動きを工夫したり、考えたりしながら遊びを進めることができたか。 ・自分達で作った運動遊びすごろくを楽しむことができたか。 		

(6) 環境構成

体育館 ⑥紙コップタワー ⑤ぺぐさし ③ボールつかみ ④洗濯ばさみ	舞台 ①短縄 ②フラフープ ⑨風船運び ⑧スプーンリレー ⑦箱つみ	※粗大・操作運動（①②⑦⑧⑨）は体育館フロアを使い、のびのびと動けるようにし、微細運動（③④⑤）は教材を置く台を用意し動きに集中できるようにする。
すぐろく台紙（6グループ）		
チャレンジ項目 （基本動作の種類）	☆環境構成のポイント ◇教師の援助 ♥動きの工夫（多様な動き）	
①短縄 （跳ぶ）	◇ペアで挑戦する時は、周りの動きを見てぶつからないよう声かけをする。 ◇跳べるようになった喜びに共感することで、達成感を味わうことができるようにする。 ☆挑戦意欲がかき立てられるよう、回数の書いたクジを用意する。 ♥前跳び、後ろ跳びなど色々な跳び方ができるようにする。	
②フラフープ （歩く・立つ・振る・跳ぶ・転がす）	◇周りの動きを見てぶつからないよう声かけをする。 ◇回せるようになった子が増えているので、認める声かけをし、自信につなげていく。 ☆挑戦意欲がかき立てられるよう、回数の書いたクジを用意する。 ♥腰だけでなく、手や足などで回せるようにする。	
③デコレーションボールつかみ	☆大きさの違うデコレーションボールや、使用する道具もトングやお箸を用意することで、興味が持てるようにする。	
④洗濯ばさみマッチング	☆海の生き物のイラストにしたり、木の実にしたりすることで数にも興味を示すことができるようにする。	
⑤ぺぐさし	☆大きさの違う3種類のぺぐを用意することで、興味がもてるようにする。	
⑥紙コップタワー （持つ・支える・運ぶ・積む）	◇知恵を出し合っている姿が見られた時は、認めたり、褒めたりする。 ☆大小の紙コップを用意することで、チャレンジ意欲が引き出せるようにする。	
⑦箱つみ （持つ・支える・運ぶ・積む）	◇知恵を出し合っている姿が見られた時は、認めたり、褒めたりする。	
⑧スプーンリレー （歩く・走る・運ぶ）	◇動きを工夫している姿が見られた時は認めたり、褒めたりする。また、他の子に動き方を知らせる。 ☆スプーンや調理器具のお玉を用意することで、動きの工夫が引き出せるようにする。	
⑨風船運び （歩く・走る・運ぶ）	◇友達と力を出し合い、動きを楽しめるようにする。	

4 仮説の検証（検証保育Ⅱ）

(1) 具体仮説2の検証

幼児の①興味や発達に応じた運動遊びを取り入れ、援助を工夫することで、どの子も②体を動かして遊ぶ楽しさを体得するであろう。

① 興味や発達に応じた運動遊びや援助の工夫

ア 幼児が興味を持っている遊びの一つである「すごろく」を作り、マスの中に体を動かすことができるチャレンジ項目（粗大運動、操作運動、微細運動）を取り入れる。粗大運動では、挑戦意欲がかき立てられるよう回数を書いたクジを用意し、操作運動では友達と考えを出し合い、力を合わせる動きを経験できるようにし、微細運動では様々な手指の動きに挑戦できるよう教材の内容を工夫する。



イ 運動遊びに消極的な幼児へは、動きを見せたり、励ましたりするなど、個々の発達に応じた援助を行う。

② 体を動かして遊ぶ楽しさを体得する

ア 自分のペースで遊びに取り組んだことが自信となり、夢中になって繰り返し挑戦する姿が見られ、「自分の力を出すおもしろさ」「友達と協力してできた喜び」「挑戦することの楽しさ」などを味わう姿が見られた。振り返りの時間には「グループのみんなで風船運びをして楽しかった」「スプーンを頭に載せて進むことが楽しかった」等、楽しさを伝える場面が見られた。



イ うまくできない動きがある子へは、動きを見せたり、友達の動きを真似るよう声をかけたり、挑戦できるように励ましたりするなど、個々の運動能力の発達に応じた援助を行うことで、挑戦しようとする姿が見られた。



(2) 学級全体の考察

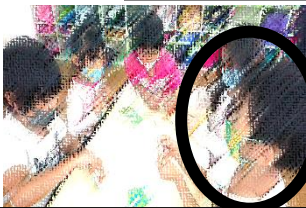
教師の固定した発想にとらわれず、幼児の発想や思いをくみ取りながら環境を構成することは「おもしろそう、やってみたい」「できそうだ。やってみよう」という気持ちを持ち、進んで体を動かして遊ぶようになったと考えられる。

友達と一緒に遊ぶ場や力を合わせて動く場を構成したことで、友達と声をかけ合いながら、達成感や充実感を味わい、楽しさを共感しあうことが分かった。このことから幼児の実態に合わせて、幼児と一緒に環境の構成をしていくことの重要性が伺える。

(3) 抽出児の考察

保育実践1・2（操作運動、操作運動に取り組む様子から）

活動中の抽出児の様子 教師の援助・教師の思い



「早くやってみたい!」と意欲的な声が聞こえたので、その思いに共感すると、活動中は笑顔を見せ喜んで参加していた。



手指を使った動きは興味を示し、意欲的に取り組んでいたので頑張っている姿を認める声かけをした。上手くできると「見て!できた」と言って嬉しそうに見せてくれた。



友達の動きを見て真似る姿がよく見られた。上手に動けていることを伝えると、笑顔で活動に参加することができた。

保育実践本時（運動すごろくで遊ぼうから）
(A児)



積極的に動いているA児。友達と考えを出し合っている姿を認めるようにした。箱積みでは、グループの友達に見守られたことで成功し、友達と喜びを共感することができた。



縄跳びを自信満々に跳んでいる。「上手に跳べているよ!」と声をかけると跳べる楽しさから繰り返し跳んでみせた。

【変容】

できるようになった動きが増えたことで自分の力を発揮しながら活動に参加していた。体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができた。

(B児)



小さい紙コップを集めて一人でタワーを作っていたが、友達と協力する楽しさも味わってほしいと思い、「黄色のコップはどうするのか?」と声をかけると、側にいた仲間が気付いて一緒に取り組み完成すると喜ぶ姿が見られた。



風船運びでは風船を弾く楽しさに興味向き場を離れようとする行動が見られるが、友達の声かけで遊びに戻り、一緒に参加することができた。

(C児)



フラフープは、腰で回す動きに挑戦する姿が見られ、数を数えるときさらに挑戦する姿が見られた。

【変容】

体を動かす遊びに興味を示しているため、得手、不得手を予め把握しできそうな動きから挑戦できるようにした。友達と動きを考える場面でも、一緒に遊べるようになった。



29回と書かれたクジを引き不安そうな表情を見せたが、励ましの声をかけるとあきらめず挑戦する姿が見られた。



微細運動では、手指を動かすことに集中している。頑張っていることを認めると嬉しそうな表情を見せた。

【変容】

共通の目的に向かって友達と一緒に取り組むことで、周りを気にせず本児なりの動きがだせるようになった。



跳べるようになった前跳びを見せてくれるB児



短縄に挑戦中のC児に跳び方を教えてあげるB児

これまで短縄を置いて跳ぶ動きを繰り返す姿が見られた。繰り返して遊ぶことは楽しいと捉え、楽しむ姿を認め、共感してきた。1月後半、前跳びに興味を示したB児。一緒に楽しむ場から、励まし合う場となりうまく跳べるようになった時には紹介する場を作った。遊び込むことが動きを洗練させ、滑らかな動きができるようになり、できた喜びを味わう姿が見られた。できるようになったことで、C児に跳び方を教えている姿も見られた。

体を動かして遊ぶことに対する興味・関心に沿って共感的に関わったこと、学級の仲間と一緒に体を動かす活動にしたことで苦手意識をもっていた運動遊びに対しても、この動きであればできそうだという前向きな態度につながったのではないかと考えられる。また、個の発達に応じた援助を行うことにより、消極的だった抽出児も、友達の動きを見て真似たり、励まされたりして、不安や緊張を感じるものがなくなり、自分のペースで取り組むことができたと考えられる。

動きのアイデアを出した時には、認める声かけをし、他の動きにも挑戦してみたいという意欲を引き出すことができたと思われる。

以上のようなことから抽出児に対して、発達段階や興味・関心を重視した教師の援助や環境構成は概ね有効であったと考える。

(4) 検証保育Ⅰ、Ⅱを通して幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に視点をおいた考察

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	学びの姿
①健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力を出し、体を動かす心地よさや達成感を味わう。 ・体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。
②自立心	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えて動き、意欲的に参加する。
③協同性	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒にアイデアを出し合いながら考える。 ・友達の考えにも耳を傾け、いろいろな方法を試す。 ・友達と一緒にやり遂げた達成感を味わう。
④道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で必要なルールを考えたり、作り直したりしながら遊ぶ。 ・友達が動いている時は、しっかり見たり応援したりする。 ・準備や片付け、順番を守る等、遊びを進めるためにルールを守る。
⑤社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に教えてもらったり、協力してもらった経験から、異年齢との活動でも手助けしたり、相手の話に耳を傾ける。
⑥思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合わせた大きさや距離等を選んで遊ぶ。 ・目的に応じて素材を工夫して使う。
⑦数量や図形、文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳び、フープ等自分ができるようになった回数を数えたり、比べたりする。 ・遊びの表示を書いたり、読んだりする。
⑧言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の頑張りを認めたり、応援したりする。 ・自分の思いを伝えたり、アイデアを出し合ったりしながら、友達と一緒に活動を進める。
⑨豊かな感性	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことや楽しかったこと等を友達に伝えようとする。 ・イメージしたことを作ったり、動きで表したりする。

このように、学びの育ちを確認するために、実践から見えてくる子どもの姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の9つを整理してみた。自然との関わり、生命尊重は本研究においては意識されにくい項目だったと捉えられる。

一つの活動から、いろいろな育ちの姿が見え、その時の姿が、次の活動につながったり広がったり発展していくことが分かった。また、見えてきた育ちの姿から、何が獲得できたかを把握することで、子ども一人一人の育ちを次の遊びにつないでいくことも大切だと考えられる。

(5) 保護者アンケートの結果と考察

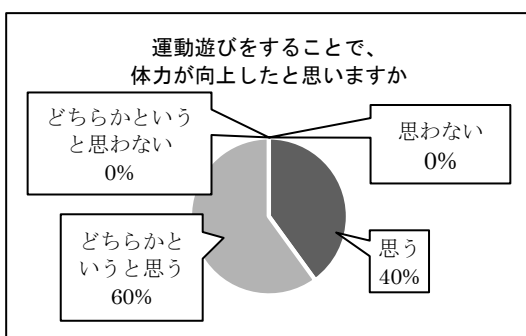


図5 体力について

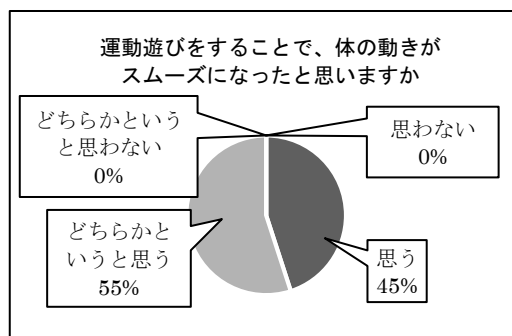


図6 体の動きについて

図5は体力について、図6は体の動きについての質問である。運動遊びを通して体力が向上したか、体の動きがスムーズになったか2つの質問とも「思う」「どちらかというと思う」をあわせると100%で全員に良い変化があったことが分かる。園での運動遊びが、幼児の発達に影響を与えていると思われる。

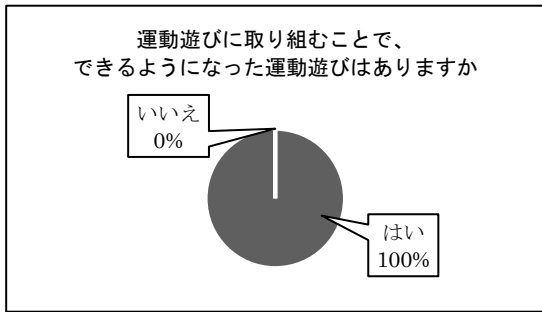


図7 運動遊びの取り組みについて

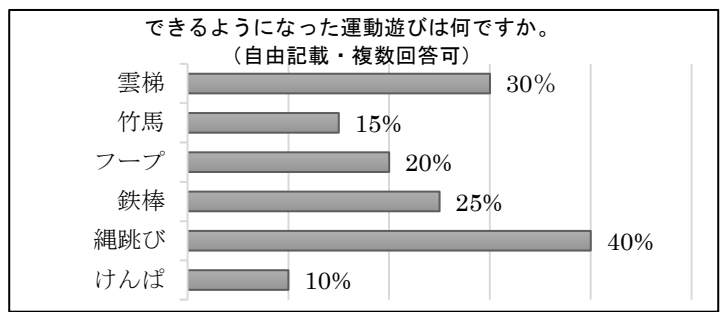


図8 運動遊びの種類について

図7は運動遊びの取り組みについての質問である。全員ができるようになった運動遊びがあることが分かる。図8のできるようになった運動遊びの種類では、縄跳びが40%と多く、雲梯が30%、鉄棒が25%である。検証保育Iがきっかけとなり運動遊びに取り組む幼児が増え、できるようになった運動遊びを保護者に見せたり、親子での話題にしたりすることで、保護者も変容に気付くことができたと思われる。

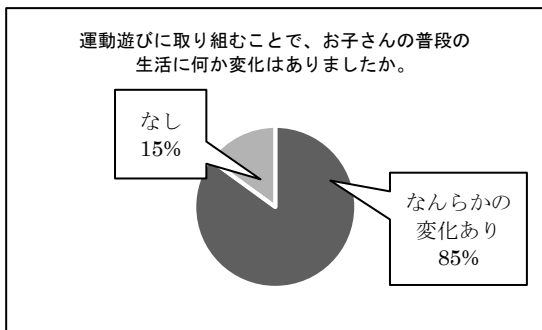


図9 普段の生活について

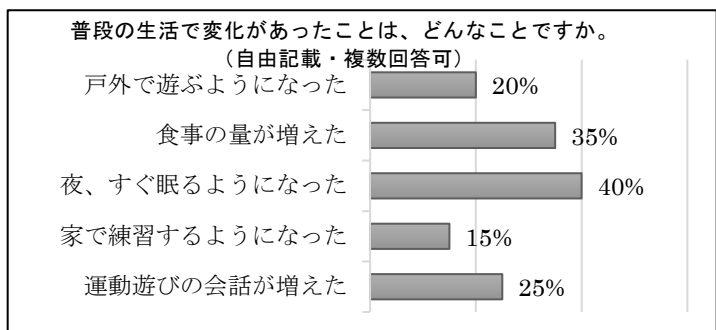


図10 普段の生活の変化について

図9は普段の生活についての質問である。運動遊びに取り組むことで、日常生活に変化のあった幼児が85%いることが分かる。図10の普段の生活で変化があったことは、睡眠に関する変化が40%、食事に関する変化が35%で生活習慣や食生活にも影響を与えることが分かる。また、園で体を動かす遊びに取り組むことで、家庭でも戸外で遊んだり、園での取り組みを継続して体を動かして遊んだりしているということも分かる。

VII 研究の成果、課題・対応策

1 成果

- (1) 幼児の興味・関心を捉えた環境構成と、幼児とともに遊びの場を作ったことで運動遊びへの意欲が高まり、遊びの内容が充実した。
- (2) 自分なりの方法で繰り返し遊ぶことができる時間、空間、物を工夫したことで多様な動きを獲得するとともに運動遊びの楽しさや充実感を味わわせることができた。
- (3) 幼児の遊びに対する興味・関心や苦手意識などを把握するとともに、幼児の動きを認め、励ます言葉をかけたことで、自ら体を動かして遊ぼうとする態度や意欲につなげることができた。

2 課題・対応策

- (1) 5歳児クラスでの保育実践となったので、3年保育における各年齢の発達課題や動きの特性についてさらに学びを深め、発達段階に応じた有効な運動遊びの保育実践を行っていく。
- (2) 主に個人の発達に視点をあてた研究となったので、個々の力で伸ばすこと、集団の中で伸ばすことを整理し、運動遊びに限らず、さまざまな遊びの中で集団の発達をねらう活動を工夫していく。
- (3) 日々変化する子どもたちの遊びを広げるために、子どもたちが挑戦したい遊びや好奇心はどこに向いているのかを学級全体と個々の姿から日々記録し、幼児の思いや興味・関心を読み取る力をさらに高めていく。

〈参考文献〉

- 森上史郎 柏女靈峰編 2019 『保育用語辞典第8版』 ミネルヴァ書房
- 文部科学省 2018 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
- 無藤隆編 2018 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 (株)東洋館出版社
- 前橋明 2017 『決定版！保育のうんどうあそび450』 株式会社新星出版社
- 川原佐公 2015 『発達がわかれば保育ができる！』 ひかりのくに株式会社
- 杉原隆 河邊貴子 2014 『幼児期における運動発達と運動遊びの指導』 ミネルヴァ書房
- 文部科学省 2013 『幼児期運動指針ガイドブック』 (株)サンライフ企画
- 河邊貴子 柴崎正行 杉原隆 2009 『保育内容 健康』 ミネルヴァ書房
- 柴崎正行 若月芳浩 2009 『保育内容 環境』 ミネルヴァ書房